評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム よりさんせ		
所在地	山口県光市三井6丁目18番地1号		
電話番号	0833-77-0381	事業所番号	3571000318
法人名	医療法人 やよい		

訪問調査日	平成 21 年 8 月 31 日	評価確定日	平成 21 年 12 月 5 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人 非常勤 3 人 (常勤換算 6.7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 42,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	有 / 無
食費	1日 1,575円			
その他の費用	月額 42,000 円			
	内訳	光熱水費 26,250円	日用品	15,750円

(4) 利用者の概要 (8月1日現在)

利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護 1	2	要介護 4	1
	要介護 2	3	要介護 5	1
	要介護 3	2	要支援 2	0
年齢	平均 88.1 歳	最低 80 歳	最高 96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 河村循環器神経内科 歯科 儀本歯科
-------------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

「よりさんせ会」という特別なお茶タイムを月に2~3回開き、日常のおやつより少し豪華なものを食べながら、利用者に寄り添っておしゃべりし、利用者の声に耳を傾け、利用者が日々どのように暮らしたいのか、どんな思いを持っているのかを把握されたり、入浴時の会話も大切にして、利用者本位の支援をされています。利用者同士や職員との会話が弾んで、和やかな雰囲気があり、利用者にとって事業所が居心地のよい場所となっています。日頃から家族の来訪が多く、医療連携体制の下で、家族と一緒に利用者を支える体制作りをして、家族との連携を図りながらターミナルケアをされています。

(特徴的な取組等)

ケアカンファレンスに主治医や家族が参加され、職員と一緒に意見交換をして介護計画を作成されています。遠隔地等で参加できない家族には、面会時や電話などで話し合っておられます。毎年、全職員一人ひとりが年間目標を立てて廊下に1年間掲示し、働きながら自己を振り返り、年度末に反省会を行ない、サービスの質の向上に取り組まれています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果について全職員が会議で検討し、地域密着型サービスとしての理念を一人ひとりに考えてもらい、見直しをして、新たな理念を作成したり、同業者との交流の検討をされるなど、できるところから改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

全職員は、評価の意義を理解し、自己評価書に個別に記入後、会議(通算5時間)で話し合い、まとめておられます。運営者の項目は、医師である運営者に記入してもらい、職員は運営者の思いを知ることが出来、働く意欲につながっています。

(運営推進会議の取組状況)

町内会長、老人会会長、住民代表2名、地域包括支援センター職員、ラーメン屋、家族、利用者、管理者、職員等のメンバーで年1回開催されています。状況報告、外部評価結果の報告、行事報告などをし、意見交換をしてサービスに活かされています。

(家族との連携状況)

毎月ホーム便りを発行し、暮らしぶりや健康状態などのコメントを添えて送付されています。家族の来訪も多く、面会時や電話等で日々の様子や健康状態を伝えたり、意見や要望を聞いておられます。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、地域の盆踊りに参加したり、事業所主催の敬老会に地域の人を招き交流しておられます。地域のボランティアの来訪や、散歩時、玄関先の川沿いに作った花壇の緑化活動を通しても交流されています。隣の畑を耕作されている人と顔なじみになり、野菜をいただいたり、お礼に草取りをするなど隣近所の人と付き合っておられます。また地域向けの事業所だよりも発行しておられます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>全職員で話し合い、「個人の自由と人格を尊重・自然と親しむ・地域の中で調和のある暮らし、互いを認める自立した暮らし、生き生きとした暮らし」という地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームや廊下に理念を掲示し、共有している。職員一人ひとりの年間目標も掲示し、理念や目標の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、地域の盆踊りに参加したり、事業所主催の敬老会に地域の人を招き、交流している。地域のボランティアの来訪や、散歩、玄関先の川沿いにつくった花壇の緑化活動を通して交流している。隣の畑を耕作している人と顔なじみになり、野菜をいただいたり、お礼に草取りをしておつきあいしている。地域向けの事業所だよりを発行し、配布している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義を理解し、全職員が個別に記入後、会議(通算5時間)を開いて話し合い、まとめている。「運営者」とある項目については、医師である運営者自身が記入している。外部評価結果については会議で検討し見直しをしたり、同業者との交流の検討などできることから改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>町内会長、老人会会長、住民代表2名、地域包括支援センター職員、ラーメン屋、家族、利用者、管理者、職員等のメンバーで年1回開催している。状況報告、行事報告、外部評価結果の報告などをして、意見交換をし、サービスに活かしている。</p>	<p>・開催回数の検討</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の担当課とは連絡を取り合い、災害対策やスプリンクラーの設置や利用料などの相談をし助言を受けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ホーム便りを発行し、暮らしぶりや健康状態などのコメントを添えて送付している。面会時や電話等でも日々の様子や健康状態、職員の異動などを伝えている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の来訪が多く、その都度声かけし、気軽に意見を言ってもらえるよう雰囲気づくりをしている。電話や運営推進会議等でも意見や要望を聞き、運営に反映させている。苦情相談窓口として事業所、担当者、第三者委員を明示している。外部機関の明示や苦情処理手続きは明確に定めていない。	・外部機関の明示 ・苦情処理手続きの明確化
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員9名を確保し、利用者の状況の変化や要望に応じて柔軟に対応している。職員の急病や急な休みの時は管理者や職員間の勤務交代で対応できるよう勤務の調整に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。新人には1ヶ月、経験者には1週間、夜勤は2～3回から7～8回まで先輩職員と一緒に勤務するようにし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた外部研修の機会を勤務の一環として提供している。月1回実施している法人内研修に参加し、受講者は事業所内で復命の研修をしている。介護テクニックなど技術的なものは、管理者やリーダーの指導で働きながらトレーニングしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の地域ケア会議に参加し、意見交換や情報交換をしている。市内の同業者との交流を検討中である。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に自宅や利用中の施設、病院等を訪問し、家族や本人と話し合っている。併設のデイサービスの利用や、事業所を見学してもらい、他の利用者や職員と一緒にお茶を飲んだり、会話してもらうことで馴染めるよう工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、利用者と日々の生活を共にしながら、いろんなことを学んでいる。戦時中の話を聞いたり、昔の文化やしきたり、利用者がこれまでに培われた知恵や習慣を教わりながら支え合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>利用者の思いや意向は「よりさんせ会」という特別なお茶タイムを月2~3回設定し、寄り添ったり、入浴時にコミュニケーションを取って把握している。家族からも聞きとり、情報は「介護記録」「申し送り簿」、急いの方が良いものは「業務日誌」に記入し、職員全員で共有し支援している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月1回、ケアカンファレンスを開催し、主治医、家族が参加して、主治医の意見や家族の希望などを取り入れて話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。参加できない家族からは、面会時や電話などで要望等を聞いている。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>期間に応じた3ヶ月、6ヶ月の見直しや、状況に変化が生じた場合は、医師や家族に相談し、職員間で話し合い、現状に即した見直しをしている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診時の付き添いや送迎、訪問理美容の支援、選挙の不在者投票、外食、ふるさと訪問等の外出支援をしている。医療連携体制加算も算定し、健康面での支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居後、全利用者が協力医療機関でもあり、運営者でもある医師をかかりつけ医としており、受診や往診の支援など、適切な医療が受けられるよう支援している。眼科、専門医等は家族が付き添えない場合は職員が支援している。歯科は往診があり、義歯が合うまで調整してくれる。医療連携体制での支援もある。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「重度化対応・看取りに関する指針」があり、家族に説明し、同意書ももらっている。これまでに5名を看取っており、家族が6ヶ月間宿泊し、職員と一緒に看取った例もある。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーの保護や接遇について内部研修をし、日常的にその場、その時を考えた言葉かけに気をつけている。対応に注意が必要だと管理者が気づいた時は、職員を指導している。記録等の個人情報の取り扱いにも注意している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れは決まっているが、一人ひとりの利用者のペースを大切に、体調や気分配慮してその人らしい暮らしが出来るよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みや要望を取り入れた献立を作り、三食とも事業所で調理している。職員と一緒に食材の買い物に行ったり、野菜の下ごしらえや、準備、後片付けなどできる利用者が一緒に行なっている。同じテーブルで同じ食事を職員も一緒に食べながら利用者とは話し、食事が楽しめるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日、9時30分から11時と、14時から16時30分頃まで可能である。デイサービスでの入浴習慣のある利用者は、午前中の中の入浴を希望している。入浴は会話をしたり、歌を歌って楽しんでいる。入浴を嫌がられる場合は、気分転換を図り、タイミングや声かけを工夫し、シャワー浴や清拭等でも支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	地域の人を招いて行なう敬老会で演奏するための鈴やカスタネット合奏の練習をしたり、お気に入りのテレビ番組を見たり、よりさんせ会、誕生会、花見、ドライブ、外食、動物園行き、習字、体操、ボール遊び、洗濯物干し、たたみ、テーブル拭き、花壇の手入れ、草抜き等、たくさんの楽しみごとや活躍できる場面づくり、気晴らしや張り合いのある暮らしができるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くの100円市に、食材の買い物に行ったり、緑のロードを散歩したり、外食やドライブなど希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束について理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害について職員は理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書に記録し、検討会議を開催し、対応策について検討している。一人ひとりの状態に応じて介護計画に反映させ、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応について学んでいる。転倒時や誤嚥などが発生したとき、その時、その場で訓練としても応急手当や初期対応を実施している。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、法人で災害避難訓練を実施し、年1回、事業所で職員のみで消火訓練を行なっている。運営推進会議を通して、地域の人々の協力が得られるよう働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は「個人記録」や「お薬帳」にファイルし、職員は副作用等を理解し共有している。服薬は手渡しで服用を確認し、必要な情報は医師や看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや介助等で、一人ひとりに応じた口腔ケアを徹底して支援している。歯ブラシや義歯などの清掃、消毒、保管についての支援をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量は記録し、水分はペットボトルを渡して、水分確保に努めている。毎月、1週間分の献立を法人の栄養士にチェックしてもらい、助言・指導を受けている。ミキサー食やきざみ食での支援もし、栄養バランスの良い食事の提供に努めている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	併設病院の勉強会に参加し、知識を共有して、手洗いやうがい、消毒等で予防を実行している。利用者、職員全員がインフルエンザの予防接種を受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	事業所内は明るく、不快な音もなく、温度も適度であり、換気にも配慮している。レクチャールームにソファーや椅子、テレビが置かれ、隣に畳の間があり、一人ひとりがくつろげる居場所がある。食堂は別フロアで、車イスの利用者もゆっくり食事ができる。玄関や食堂から、豊かな自然環境に恵まれた河川や木々の緑、道路、花壇が見え、散歩する人や走行車が見え、生活感や季節感などが感じられる。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備え付けのクローゼットがあり、馴染みの家具や使いやすいベッド、鏡台、テレビ、仏壇等が持ち込まれている。家族の写真や誕生日の寄せ書きの色紙などを飾り、一人ひとりが居心地良く過ごせるように工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	ブル-ア-ホーム
所在地	光市 三井 6丁目18-1
電話番号	0833-77-0381
開設年月日	平成15年12月 / 日

【実施ユニットの概要】 (7月30日現在)

ユニットの名称				
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 1名	女性 8名	
	要介護1	2	要介護4	1
	要介護2	3	要介護5	1
	要介護3	2	要支援2	0
年齢構成	平均 88.1 歳	最低 80 歳	最高 96 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	<p>評価表を全戸に配布し記入してもらい、その後^{5H}会議をもち全職員と話し合い^{まとめ}に仕上げた。 運営者の記載項目は、運営者自身で記載した。</p>
評価確定日	平成21年7月20日

【サービスの特徴】

併設である。河村循環器神経内科での健康管理。又、緊急時の対応と医療との連携がとれている。

スタッフは、利用者様のケアをこまめにこまめにし、見極めをするところは、待つことを心がけ自立への支援を行っている。

併設施設(療養型病棟:デイズケア)で、行うレクリエーションを通し交流をもちなじみの関係を築き生活の元気のついでにしている。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
	あじにみる理念を職員全員で見直し 今迄の理念に訂正を加え作り直した。		
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
	職員全員で作った理念を明確に表現して 掲示し目標を共有すると共に職員一人ひとりの目標も 掲示している		
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
	スタッフルーム 所下等に掲示し 意識啓発している。		常に目に触れる場所に掲示し 意識啓発につとめたい。
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
	定期的な講演会や勉強会に積極的に参加 1. 個々のスキルアップと目標可。		
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
	ホーム便り(家族向け、地域向け)と 通してご理解いただけるよう取り組んでいる。		可能であれば 専用展覧の確保を行う
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようとする日常的な付き合いができるよう努めている。		
	平塚市議会や町会等と連携し地域住民の方 と交流を持ち 定期的な交流会をしている。		
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
	地域の盆踊りに参加したり、当平塚町の敬老会に 参加していただいたりするなど 交流とほかしている。		緑化委員会を通じて 地域の一員であることの自覚と目標可。
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		
	緑化活動を通じて 環境の整備に尽くす		普及道としての お見せしやすい 状況と確保する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9 (4)	<p>○<u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価に対しては、あみやかに対応し改善を行う</p>	<p>自己の研究と学習 更に積極的に理解と深める</p>
10 (5)	<p>○<u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>評価への取り組み状況について報告し、話し合いを行っている。</p>	
11 (6)	<p>○<u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>行政との連絡を取り合いサービスの質向上に努めている。</p>	
12	<p>○<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>	<p>必要はご利用者には、活用している。</p>	
13	<p>○<u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待についての相談を受け対応に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
14	<p>○<u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、ご利用者ご家族がご理解納得されるまで十分に説明を行っている。</p>	<p>契約後も理解ができていないかどうかの確認をしている</p>
15	<p>○<u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>おこなった会の開催によりご利用者等の意見等を受け多く機会を設けている。</p>	
16 (7)	<p>○<u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>向合時又は、今後、電話にて定期的に報告している</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>〇情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じて いる(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>	<p>専任のみは情報開示に対応。</p>	
18 (8)	<p>〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに 外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映さ せているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び 職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の 手続きを明確に定めている。</p>	<p>第三者委員の選任を行い明示した。</p>	<p>苦情処理の対応マニュアルを 作成中である。</p>
19	<p>〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の意見を運営に反映させている。</p>	
20 (9)	<p>〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が できるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保 するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要に応じた職員を確保し人員調整を 行っている。</p>	
21 (10)	<p>〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による 支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限 に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメー ジを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員自身の変化には、即座に対応し 初回に対しては補完を行う。</p>	
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するた めの計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確 保や、働きながらトレーニングしていくことを進めてい る。</p>	<p>法人全体でのバランスを保つながら全ての 職種で積極的に研修会に参加する</p>	<p>計画通りに行っている</p>
23	<p>〇職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配 置することにより、多様な利用者の暮らしに対応して いる。</p>	<p>年代 職歴 資格 経験年数など 多様な 資質をもった職員を配置している。</p>	
24 (12)	<p>〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流す る機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪 問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく 取り組みをしている。</p>	<p>地域々々会議等を含めて各職種と 積極的に交流する</p>	<p>さらに積極的に他施設の 状況と理解したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		状況の把握改善を積極的に行う。
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		報告書の作成を含めて新たに作成する。
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		然るべき改善をほかに
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		ご家族からの相談がみれば軽く時19を作り思っておられることとしっかり聴きご家族側の立場から考えるようにしている。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		ご利用を伺う場合とされる支え合う関係を目指している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
33	<p>〇本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族と何でも話し合える関係を作り</p> <p>ご家族と一緒にご本人を支えている。</p>		
34	<p>〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご本人とご家族の関係がより良い状態で保てるよう</p> <p>ご家族との連絡を密にし、相互援助や状態把握に努めている。</p>		
35	<p>〇馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご本人が大切にしてきた場所、いつでも気軽に来たいところの支援につとめている。</p>		
36	<p>〇利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>ご利用者同士のトラブルも取り扱う内に入るべく</p> <p>ご利用者を解決できている。</p>		
37	<p>〇関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>契約終了後も関係を断ち切らないことへ</p> <p>大切にしている。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
38	<p>〇思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居時に本人、ご家族と暮らしの希望や意向について十分に話し合い、理解するよう努めている。</p>		<p>日々の生活で一人ひとりと話し合い、お互いの思いや意向を確認している。</p>
39	<p>〇これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居時に詳細把握していたり、把握するよう努めている。</p>		<p>入居後も情報収集を行い、把握に努めている。</p>
40	<p>〇暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>毎日の申し送りや記録で一日の過ごし方や心身状態の現状を総合的に把握するよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族に ケアマネージャーに参加していただき話し合いながらケア計画を作成している	
42	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じて話し合いをし計画を変更している	
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し、職員全員で情報を共有しケアに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設施設での健康診断 回診のこと 健康管理に与えている	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じてボランティアを導き出し、協力を得ながら支援している	
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ご本人、ご家族のご理解を得て受け入れている	
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	実施している	ご本人、ご家族の理解があれば支援していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
56	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	今の場 今の場で常に考え誘いやプライバシーを損ねるような対応はしない	対応に困った時は、必ずふり返りを行い、今後のケアにつなげていく
57	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	どうしたら思いや希望が表れるか、常に考えてわかりやすいことを選んで説明している	
58	〇“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	1日1日のケアを大切に支援している。	
59	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者一人ひとりのペースを大切に今の人に合ったペースで話し合いを支援している	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご本人の希望される美容院へお連れしたり、美容院へお連れしたりしている。	
61	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者と職員が一緒に準備、片付けをしている。	
62	〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	お酒、おやつ等、楽しみにされている状況に合わせて楽しめるよう支援している	
63	〇気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンの把握してトイレに誘導している。 夜間は、おむつを履かせた状態で個室に合わせた支援を行っている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>〇入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
65	<p>〇安眠休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>〇お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>〇日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>〇普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>〇電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>〇家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>〇家族の付き添いへの支援</p> <p>利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	<p>〇家族が参加しやすい行事の実践</p> <p>年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>	<p>防災大会など 各施設に参加して行っている</p>	
(4)安心と安全を支える支援			
74	<p>〇身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>従業者 大町の 自覚を含めて 念々 努力中</p>	
75	<p>〇鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全の職員が 理解しており 鍵は かけない</p>	
76	<p>〇利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>昼夜通して 一人ひとりの 様子 確認中</p>	
77	<p>〇注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>ご利用者の 状態に応じて 適切に対応している</p>	
78	<p>〇事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>状態は 常に 変化もあるため 予防及 話し合い 手取防止に努めている</p>	
79	<p>〇急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>応急手当や 初期対応について 学んでいる</p>	
80	<p>〇再発防止への取り組み</p> <p>緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>	<p>事故報告書 かなりはと 報告書と 報告し 再発防止に向けて 話し合い 行っている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難経路を事前に確認して、災害時の避難方法について、定期的な訓練を行っている。		
82 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	状態やリスクに応じて、家族等にリスクを説明し、話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の生活の中で利用者の変化も五感で察知し、早期に対応している。		
84 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個人のファイルに服薬中の薬についての作用、用量、副作用などの文献を記入しており、職員は全て理解できている。		
85 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	職員は高齢者の便秘の原因や影響について研修を受け、排便表を用いて個人の排便状況を確認している。		
86 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケアを徹底して行い、歯ブラシや歯磨き粉を適切に消毒し、清潔を保つようにしている。		
87 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量は記録し、栄養摂取量や水分摂取量を把握している。併設施設内の栄養士に栄養指導も受けている。		
88 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	併設施設での感染症にかかった事例を参考にしている。		
89 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所・清潔を徹底して行い、食中毒の予防に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
91	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	適量採光を行ったり 転脚機の使用を行い 不快にならないよう配慮している。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	あー！あー！の思い思いに過ごせるよう 配慮している。	
93	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人 ご家族と相談し 使い慣れたものと 持参してもらっている。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	早朝の涼しい時間帯は 全戸の窓を開け 採光を行い 室温は 夏 冬は 外気温差 5℃以内と している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	バリアフリーとし 手回りの設置により 安全に 生活が送れるようにしている。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	誤りやきじた場合 なぜ誤りがあつたのか 理由と明確にし 今後のためにつけていく。	
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関横の花壇は ご利用者さん達だけで 作りあげ管理されている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 ☐ ① ほぼ全ての利用者の ☐ ② 利用者の2/3くらいの ☐ ③ 利用者の1/3くらいの ☒ ④ ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 ☐ ① 毎日ある ☒ ② 数日に1回程度ある ☐ ③ たまにある ☐ ④ ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 ☐ ① ほぼ全ての利用者が ☐ ② 利用者の2/3くらいが ☐ ③ 利用者の1/3くらいが ☒ ④ ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。 ☐ ① ほぼ全ての利用者が ☒ ② 利用者の2/3くらいが ☐ ③ 利用者の1/3くらいが ☐ ④ ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 ☐ ① ほぼ全ての利用者が ☐ ② 利用者の2/3くらいが ☐ ③ 利用者の1/3くらいが ☒ ④ ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 ☒ ① ほぼ全ての利用者が ☐ ② 利用者の2/3くらいが ☐ ③ 利用者の1/3くらいが ☐ ④ ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 ☐ ① ほぼ全ての利用者が ☐ ② 利用者の2/3くらいが ☐ ③ 利用者の1/3くらいが ☒ ④ ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 ☐ ① ほぼ全ての家族等と ☐ ② 家族の2/3くらいと ☐ ③ 家族の1/3くらいと ☒ ④ ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 ☐ ① ほぼ毎日のように ☐ ② 数日に1回程度 ☒ ③ たまに ☐ ④ ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 ☐ ① 大いに増えている ☐ ② 少しずつ増えている ☐ ③ あまり増えていない ☒ ④ 全くいない
108	職員は、活き活きと働けている。 ☒ ① ほぼ全ての職員が ☐ ② 職員の2/3くらいが ☐ ③ 職員の1/3くらいが ☐ ④ ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 ☐ ① ほぼ全ての利用者が ☐ ② 利用者の2/3くらいが ☐ ③ 利用者の1/3くらいが ☒ ④ ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 ☐ ① ほぼ全ての家族等が ☐ ② 家族等の2/3くらいが ☐ ③ 家族等の1/3くらいが ☒ ④ ほとんどできていない